



【残りの人生どう生きるべきか。】

聖書本文：伝道者の書12章8-14/ 暗唱聖句：伝道者の書12:13-14

説教者：鄭南哲 牧師
(Rev. Jung nam-chul)

今日我々に与えられている神様からの御言葉は伝道者の書です。

伝道者の書というのは“宣べ伝える、知らせる者の書”という意味です。12章で構成されているこの伝道者の書は何かこの御言葉を読む者たちに、そして我々に伝えることがある事を暗示しています。伝道者の書は何を伝えるためにこの書を記録したのでしょうか？

<1. 伝道者の著者：ソロモン王の人生>

よく知られていることはソロモン王の若い時は‘雅歌書’が記録され、壮年期の時には‘箴言’が、ソロモン王の老年、人生のたそがれの時に書かれて御言葉が‘伝道者の書’であります。

伝道者の書においてソロモンは直接自分が書いたと名前が知らせてはいたのですが、伝道者の書の記録はソロモンだと知られています。1章1節によると「エルサレムでの王、ダビデの子、伝道者のことば。」だと書かれています。

先週裁きつかさ時代がすぎて、初のサウル王が立てられ、その後ダビデ王がダビデの部下ウリヤの妻バテシェバからの二番目の息子としてソロモン生まれ、サウルとダビデに引き続き、イスラエルの三代目の王となりました。

ソロモンは若い21才にイスラエルの王となって40年間在任しました。

第一列王記3章によると、初期、ソロモンが王になったばかりの時は神様を恐れ、神様の御心を求めました。彼が神様を恐れかしこんでいけにえを捧げました。「3ソロモンは主を愛し、父ダビデのおきてに歩んでいた。ただし、彼は高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。4王はいけにえをささげようとギブオンへ行った。そこが最も重要な高き所だったからである。ソロモンはその祭壇の上で千匹の全焼のささげ物をささげた。5ギブオンで主は夜の夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。(3-5節)」」

ソロモン王の礼拝と献身を喜んで下さった神様はソロモン王に“あなたに何を与えようか。願え。”と言われた時、ソロモン王はイスラエルの民を神の御心に相応しく、正しく治められるようにと神の知恵を求めました。金や権力を求めず、王として、神の知恵を頂き自分に与えられていた使命を最後まで果たそうとしていた姿を喜んで下さった神様は彼が求めなかった富と誉れまですべて加えて下さいました。神様はソロモン王に「あなたの生きているかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者は一人いない(第一列王記3:13)」で言われました。

それでソロモン王は知恵の象徴でした。第一列王記4章30節では「それでソロモンの知恵は、東のすべての人々の知恵と、エジプト人のすべての知恵とにまさっていた。」そして、第一列王記4章34節によると、ソロモン王の知恵のうわさを聞いた王たちのもとから、あらゆる国の人々が、彼の知恵を聞くために訪ねて来るほど当時にも今日に至るまでも知恵の王として知られるようになりました。例え、エチオピアのシェバの女王がソロモンの名声を聞いて訪ねるほどでした(第二歴代誌9:1)。聖書にも知恵の人の体表的な存在として、認められ、聖書に“ソロモンの知恵”もしくは“ソロモンのすべての知恵”という表現が聖書に何度も言及されています。

(第一列王10:4, 23, 11:41, 第二歴代誌9:3, 22, 23, マタイ12:42, ルカ11:31)。

知恵だけではなく、ソロモン王は富と名誉と栄華を極めた王となりました。「ソロモン王は、富と知恵において、地上のどの王よりもまさっていた。(第一列王記10:23, 第二歴代誌9:22)」イエス様も「栄華(えいが)を極めたソロモン(マタイ6:29, ルカ12:27)」という表現をされたというのは神から彼の富と栄華と名誉がどれだけ祝福されたのかが分りません。

それだけではありません。ソロモン王の時代にはイスラエルの民族の統一のままを保ち、イスラエルの王国領土が一番拡大され「あの大河からペリシテ人の地、さらにエジプトの国境に至る、すべての王国を支配した。」(第一列王記4章21節、第二歴代誌1章・第二歴代誌9章26節)、イスラエルの一番の全盛期と平安な時代を迎えました。そして、国力を高めました。軍隊を養成し、軍費(ぐんび)を蓄え、最高の軍事力を保っていた時代(騎兵のための領地建設(第一列王記9章18-19)、戦車1400台、騎兵は12000人(列王記10章26節)、馬屋が四千箇所以上(第二歴代9章25節))ともなりました。彼はこのような政治的な能力だけではなく、詩と文学、芸術、動植物学科など自然にも詳しく人物でした(第一列王記4章33節)。

そして、ソロモン王が今までなかった一番の業績は神に礼拝を捧げられる神の聖殿を初めて建てることに用いられました(*建築年数7年間・働いた労働者数:約3万人ほど、山で聖殿で使う石と岩を切る人だけ8万人、運ぶのに7万人が動員*聖殿に使う最高級レバノンにの杉材の木を切るために毎日1万人ずつ派遣する(第一列王記5-6章、7:15-51)。箴言や伝道者の書を見ると、まさしく彼ほど歴史上賢い人物として祝福された人も少ないでしょう。

ところが、全てが祝福され、物事がうまく行く時、ソロモン王は神を背き、神から離れ始めます。国が豊かになり、

平穩になって安定してくると彼の生き方は神から離れ、墮落に陥いてしまいます。

結局、神から与えられたすべての富と権力、王の立場を利用し自分の本能の欲する通り止めず、快樂の道具となってしまう。伝道者の書2章10節の中「自分の目の欲(ほっ)するものは何でも拒まず、心のおもむくままに、あらゆることを楽しんだ。」と書かれています。ソロモン王が自分で告白するように「私はまた、自分のために銀や金、それに王たちの宝や諸州(しよしゅう)の宝も集めた。男女の歌い手を得、人の子らの快樂である、多くのそばめを手に入れた。(伝道者の書2章8節)

ソロモン王は自分の妻に満足せず、およそ一千人ほどの女性を自分のそばに置かせました(列王記第一11章1～3節「1ソロモン王は、ファラオの娘のほかにも多くの異国人の女、すなわちモアブ人の女、アモン人の女、エドム人の女、シドン人の女、ヘテ人の女を愛した。2この女たちは、主がかつてイスラエル人に、「あなたがたは彼らの中にはいてはならない。彼らをあなたがたの中に入れてもならない。さもないと、彼らは必ずあなたがたの心を転(てん)じて彼らの神々に従わせる」と言われた、その国々の者であった。しかし、ソロモンは彼女たちを愛して離れなかった。3彼には、七百人の王妃としての妻と、三百人のそばめがいた。その妻たちが彼の心を転(てん)じた。」)

それだけではなく、創造主の神以外の異邦の偶像の神々を拝んでいた女たちを自分のそばめとして受け入れると、自動的に自分もさっそく偶像崇拜に陥り、アシュタロテを拝み、ミルコムとモレックにも拝んで、グモスの神まで全部拝んでしまいました(列王記第一11章5-7節「ソロモンは、シドン人の女神アシュタロテと、アモン人のあの忌(い)むべきミルコムに従った。6こうしてソロモンは、主の目に悪であることを行ない、父ダビデのように、主に従い通さなかった。7当時、ソロモンは、モアブの忌むべきケモシュのために、エルサレムの東にある山の上に高き所を築いた。アモン人の、忌むべきモレックのためにも、そうした。」)

結局神を離れ、全ての世の楽しみと快樂を体験した結果、神の厳しい怒りを受けるしかなくなりました。「主はソロモンに怒りを発せられた。それは彼の心がイスラエルの神、主から離れたからである。このことについて、ほかの神々に従って行ってはならないと命じておられたのに、彼は主の命令を守らなかったからである。(列王記第一11章8-9節)」

そういうわけで、ソロモン王は老後、神の前で全ての人生の歩みを振り返ってみながら、経験した彼の告白はこうでした。「私は、日の下で行なわれるすべてのわざを見たが、なんと、見よ、すべてが空しく、風を追うようなものだ。(伝道者の書1章14節)」彼は老年になってようやく今までの人生の旅路を振り返ってみながら、神の御前で懺悔(ざんげ)しながら、神様の御前でまことの人生の意味を問いかけています。我々の人生はどこから来てどこに向かっていくのか。日の下で一度だけのこの人生をどうやって生きるべきなのか。彼が一人の失敗の経験者として、これから神の前でふさわしく人生を歩もうとしている人々にメッセージを投げているのです。これがまさに伝道者の書なのです。

<2. 伝道者の書のテーマ：だから日の上(創造主の神)を見上げなさい！>

伝道者の書はどうやって始まっていますか。

伝道者の書1章2節をみてください。「空の空。伝道者は言う。空の空。すべては空。」

英語の聖書では空という意味をMeaninglessで訳しましたが、これが5回も繰り返されています。空の意味は「息を吹き掛ける(例え、寒い時、手に息をふきかけると、その息が白く目に見えますが、すぐ消えて見えなくなるのではありませんか。それほど世のすべてが一瞬のものですぐ消え去る一瞬のものであるため、むなしいという言葉が使われたのです。そういうわけで伝道者の書でこの単語は頻繁に出ているのです。)」という意味です。日の下でのすべてがむなしい(Everything is meaningless)という意味です。この伝道者の書の結論になる、**12章8節**でも今までの人生の中でやった事をすべて述べてから結論的にもう一度繰り返されています。

「空の空。伝道者は言う。すべては空。」

伝道者の書のカギになる一番よく出てくる単語が二つありますが、原語聖書で調べると、「空(meaningless)、むなしい(vanity)」という言葉を含めて**34回**「日の下で」という言葉が**31回**も出ています。日の下で限られている時間と空間のもとでのしばらくの人生の旅路である意味が含まれています。神様なしに日の下で色々なことに手出して人生の真の目的と満足を探そうと努力してもむなしいし、意味がなかったということを伝道者の書は語っています。

そういうわけで伝道者の書によると、日の下で人間の知恵もむなしいし(伝道書1章12-18節)、快樂もむなしい(伝道書2章1-11節)、知恵と富もむなしい(伝道書2章12-23節)、人間のすべての努力もむなしい(伝道書2章24節-3章15節)ということを語っています。4章から11章まではすべてがむなしいという主題をさらに拡大し詳しく説明する内容が書かれています。

しかし、愛するクリスチャン信仰の家族のみなさん！決して誤解(ごかい)してはいけません。この伝道者の書のメッセージは虚無主義(ニヒリズム(nihilism))や悲観主義(人生は何の生きる意味もなく、人生はどでも良い)と主張しているのでは決してありません！

伝道者の書で、神はソロモン王を通して、日の下のすべてがむなしからこそ、方向を変えて日の上の真の神様を見上げる時、人生のまことの望み、真の救いが与えられる！ですから、神を信じ、神を見上げる時こそ、神から許された一度の人生をどう生きるべきなのかその真の答えが見いだされると教えて下さっています。

<3. 伝道者の書の結論>

伝道者の書を結論的にまとめたところが今日の本文の13-14節です。

「13結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。」

14神は、善であれ悪であれ、あらゆる隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからである。」

「結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。」 ‘言うべきことすべて言ったはずなのだ。だから結論はこれだ！’と読む我らに教えて下さっています。12章1節の「あなたの若い日(まだ生ける力があるうちに)に、あなたの創造者を覚えよ。」というメッセージで結論を出して終わっていますが、まとめて、3つのポイントでまとめて見る事ができます。

①神様なしの日の下での人生の結末は空しくなるのみである：どんなにたくの権力と名誉、快樂、お金を所有し、世の欲しがるすべてのものを手に入れたとしても、神様と関係なく、神から離れ、神様のいない人生の結局は、むなしく終わるしかないのが人の人生であることを明確に教えて下さっています。これが、人をお造りになり、命を与え、すべての人に一度の人生を許して下さった神様がソロモン王を通して我らに悟らせて下さっている真理であります。

②真の神様を知り、神様を信じ、神様を愛して、その命令を守り行うことである(13節「結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。」)

結局、伝道者の書を通して、人が追い求めるべき人生の最善の道が何であるかをよく教えて下さっています。伝道者はこれがまさに人間の持つべき務(つと)めであると教えて下さっています。すでに神様はソロモンを通して箴言1章7節「主を恐れることは、知恵の初め。愚かな物は知恵と訓戒をさげすむ。」、箴言9章10節で、「主を恐れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは悟ることである。」と教えて下さいました。人生のまことの知恵は神様を知り、信じることから始まります。創造主神様のみ真の神の救いと永遠のいのちと祝福の源であるからです。人間は本来真の神様を信じ、その真の神と交わりながら生きるようにと造られた存在です。

③神様は人間のすべての行いをご存知で必ず報われ裁かれる(14節「神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。」)

これが伝道者の書の最後のメッセージです。

神様は我々の考えていること、心のすべてのはかりごとやすべての行い、他の人の知らない隠密(おんみつ)なことさえもすべてご存じであり、正しく報われ、裁かれるお方であることを教えて下さっています。ですから、人の人生とは生きている時が決してすべてではない事を暗示して下さいます。かならず、神が許して下さいましたこの一度の人生の旅路の時を終わった時には、だれであってもかならず、神の御前にお立ちになり、人生のすべての行われたことに対し、精算をされ、報われる時が待っている事を教えて下さっています。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！だからこそ、今生かされて我々の一度の人生がどれだけ神様の御前で大切なのか逆説に教えて下さっているのではないのでしょうか。だからまだまだ自分の人生はこの地上でまったく問題がないと、永遠に長続くのだと勘違いしてはならないのだと教えて下さっています。ですから、この一度の人生の許された毎日を神の前で、神様から離れず、自分勝手に歩まずに、日々神を信じ、頼り、その御言葉通りに従い守り行うことの大切さをよく教えて下さっているのです。

愛する信仰の家族のみなさん！我々の人生が長いように感じる時もありますが、人生を振り返ってみると、どんな早いものなのか分かりません。詩篇90篇4節に「まことに、あなたの目には、千年も、昨日のように過ぎ去り、夜回(よまわり)のひと時ほどです。」、詩篇90篇10節では人生についてこのように表しています。「私たちの齢は七十年。健やかであつても八十年。そのほとんどは、労苦とわずわいです。瞬(またた)く間に時は過ぎ、私たちは飛び去ります。」

今日の伝道者の書の結論は、かつてソロモン王の父であったダビデの告白と似てるような内容だと感じさせられます。詩篇39篇4-6節です。「主よ。お知らせください。私の終わり、私の齢がどれだけなのか。私がいかにいかに知らないかを知ることができるように。ご覧ください。あなたは私の日数を手幅(てはば)ほどにされました。あなたの御前では私の一生はないも同然です。まことに、人は幻のように歩き回り、まことにむなしく立ち騒(さわ)ぎます。人は、蓄(たくわ)えるが、だれのものになるのか知りません。」そして、結論的人生の答えはこうでした。

「主よ。今、私は何を待ち望みましょう。私の望み、それはあなたです。(詩篇39篇7節)」

「12どうか教えて下さい。自分の日を数えることを。そして私たちに知恵の心を得させて下さい。」(詩篇90篇12節)

愛する信仰の家族のみなさん！我々の生涯で練習はありません。通って来た我々の人生の旅路を消すこともできま

せん。神様の報いは平等です。神様の報いは正確で、正しく行われます。その神の前で人生を正しく数えて見ながら、今与えられている人生を神の御前で感謝し、主と共に歩むみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。

伝道者の書は人生の結局、ソロモン王の生涯を通して、人間のなやむべきすべての疑問と絶望と試して見るすべてが書かれています。ソロモンは人生の末に人生における飢え渴きとむなしさの中で、人生の真の意味と人が残りのこれからの人生をどう生きるを問いかける神様の御言葉です。ソロモン王は死ぬ直前、悔い改め、もう一度神様を見上げます。そして、この伝道者の書を読んでいるすべての者たちがぐれぐれも自分のような生き方は繰り返さないようにと反面教師として証しをし、語っています。そして、われわれにこう伝えています。

“今日からもう一度神を見上げて、新たに神に立ち返って生けるチャンス、その機会がまだ神はあなたに許して下さっているのだ。”

もう本日10月最後の主日となりました。あっという間に今年も後残り11月と12月、後2か月が残されています。今日この伝道者の書に招待された我々はしばらく今までの人生の旅路を振り返って見て下さい。神様の御前で私は今まで何を求めるために生きて来たのか。何が自分の人生の目標なのか。いったい自分はどこへ向かって頑張っているのか。今日我々を招いて下さった伝道者の書を通して、今この時点でもう一度目を上げて、心を創造主なる神様に向かって謙遜に神を心から信じ、愛し、その御言葉に従いながら、神様とともに歩むことができますように切にお祈り申し上げます。今日も主にあつて自分に与えられている人生の真の人生意味と目的を神の御言葉を通して示され、悟られ、神の豊かな祝福を蓄え、主と共に進み行くクリスチャンプレイズチャーチの家族一人一人の尊い人生となりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!

<関連聖句>

「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠への思いを与えられた。しかし、人は、神が行なわれるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。」-伝道者の書3章11節-

「事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。」-ヨハネの福音書6章40節-

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」-ヨハネの福音書5章24節-

「また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごさない。」-第一ペテロ1章17節-

「また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごさない。」-ペテロの手紙第一1章17節(新約聖書)-

「私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。私たちの住まいである地上の幕屋がこわれても神の下さる建物がある事を私たちは知っています。それは人の手によらない天にある永遠の家です。」-コリント第二4章18-5:1節-

「私たちのすべての日はあなたの激しい怒りの中に消え去り、私たちは自分の齢を一息のように終わらせます。10私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。そのほとんどは労苦とわざわいです。瞬(またた)く間に時は過ぎ、私たちは飛び去ります。12どうか教えて下さい。自分の日を数えることを。そうして私たちに知恵の心を得させて下さい。」-詩篇90篇9節-10節、12節-



設立17周年感謝

日本同盟基督教団

クリスチャンプレイズチャーチ

Christian Praise Church